

琉球大学学術リポジトリ

[資料] 中国「フール」探訪：江西省

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄地理学会 公開日: 2018-11-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 英樹 メールアドレス: 所属: 江西外語外貿職業学院外語系
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017639

中国「フール」探訪 —江西省—

金城英樹

(江西外語外貿職業学院外語系)

I はじめに

沖縄にはかつて豚小屋とトイレを一体にした豚便所（フール）があった。しかし私はそこで実際に豚が飼われているところを見たことはない。現在は使われなくなったその施設を見たことがあるだけである。

沖縄には歴史的な関わりの中で中国から伝わったものが数多くあり、今日でも中国に対して親近感を持っている人が少なくない。しかしそのような人でも中国へ行くとなると気がかりなのはトイレのことではないだろうか。

実際に中国へ来てみると現在都市部では水洗トイレが普及していた。腰掛けるスタイルの便器を見かけることは少ないものの、壁が低くても屈んでしまえば気にならないし、ドアがないことに慣れれば、用便の際に抵抗を感じることはほとんどない。

ある日の昼休みに学生達とそれぞれの出身地や旅行の話をしているときに、話題が旅先でのトイレ探しになった。そこで面白いトイレの話ということで私が沖縄の豚便所を紹介すると、「私の親戚の家にもそのようなトイレがあります」と言う学生がいた。河北省出身のその彼の話では、農村の祖母の家では豚小屋を便所としても使っていて、人の排泄物を豚の餌にしているという。私はこの話を聞いてから沖縄の豚便所（フール）のルーツに関心を持つようになり、機会があるたびに学生の地元のトイレについて聞いてみた。

やはり学生にとってはトイレに関する話題を人前で話すのには抵抗感があり、またそのような施設を使っていることを恥ずかしいと考えているのか、私がトイレの話題を出すと「子供の頃に見たことはありますが、その様なトイレは現在はもうありません」と言われることが多かった。しかし数人の学生から「現在では使われていませんが子

供の頃に見たことがあります。数は少なくなりましたが、その施設は今も残っています」という情報が得られた。ただし「人の排泄物を豚の餌にする」ということは知っているどころか、むしろ気味悪がられてしまった。

中国における伝統的な養豚方法について考古学的資料によると、漢代の養豚は肥料を作ることに重点が置かれ、トイレと同一施設の猪圏はそのための施設だった（郭 2007）。このことは江西省においても同様で、考古学的調査・研究によると出土遺物から前漢以後肥料として糞便を溜めるために、形式は違えどもトイレ一体になった養豚施設が出現した（周 1998）。

アジア各地のトイレ事情や沖縄の豚便所（フール）に詳しい平川宗隆の著書『沖縄トイレ世替わり』（2000）には中国各地に沖縄と同じ形態の豚便所があるということや、沖縄への豚便所伝来ルートについて南方渡來說、閩人三十六姓が豚とともに福建省から直接持ち込んだ説、北方渡來說があることが紹介されている。私は沖縄の豚便所（フール）は福建省から直接持ち込まれたと仮定して、福建省を中心とした中国で同様の施設が見られるであろうと想定した。本稿ではそこから沖縄の豚便所（フール）のルーツを探ることを試みた。

沖縄の豚便所（フール）は戦前まで広く使われていたが「公衆衛生上、好ましくないとの理由から、次第にその姿を消して行く運命にあった」（平川 2000:55）のに対して、中国ではどのような様子だったのか。また現在の状況はどうかを考えたときに、学生と博物館へ行ったときのことを思い出した。博物館で学生が「これは今も私の村では使っています」と紹介してくれた展示物が思いのほか多かった。このことから沖縄の豚便所（フール）のルーツを探るために、古い養豚方法が現在も残っている可能性が高い農村を調査することにした。

当初調査地として沖縄との繋がりが深く、沖縄

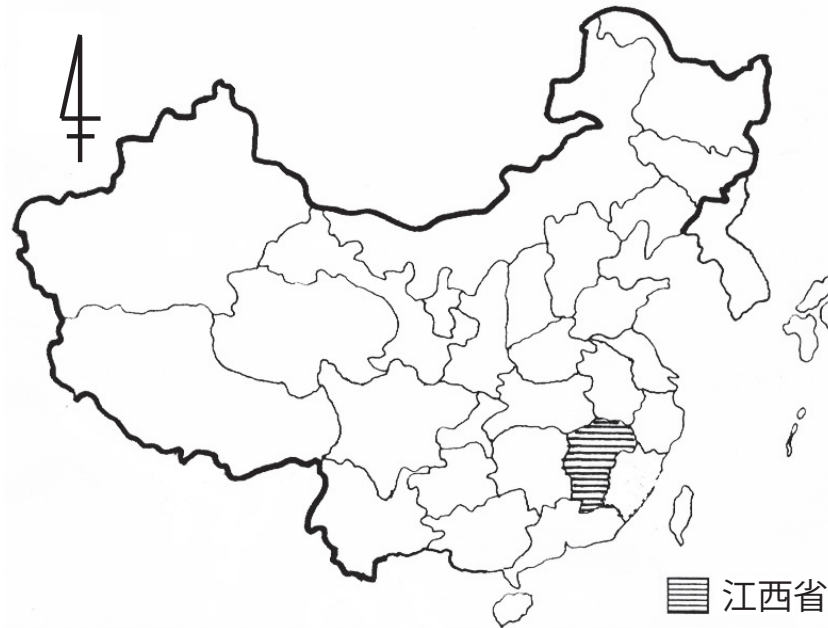


図1 江西省の位置
(西安地図出版社 (2010) 『中国地図』より作成)

の豚便所（フール）のルーツと言えるような建造物が現代にも残っていると考えられる福建省を想定した。しかし福建省の農村出身の学生からは豚便所（フール）に関する有力な手掛かりが得られなかった。一方江西省出身の学生に豚便所（フール）の話をしたところ、現在も彼らの村にそのような建造物があるということを知った。そこで今回は江西省内の農村を調査することにした。調査は養豚施設の所有者に対するアンケート形式で行った。結果は沖縄の豚便所（フール）のルーツを辿れるような施設や養豚方法は見られなかった。

Ⅱ 調査方法

調査は江西省内の農村へ行き、養豚施設を直接見学することに加えて、それぞれの施設の所有者に以下の質問をすることとした。

養豚施設所有者への質問

- ・豚便所（便所・豚舎）の呼び方は何か（普通話でも方言でも可）
- ・施設内の豚の居住空間の規模（縦、横、高さ）はどの程度か。またそれはどのような形態か。
- ・施設の建築材料は何か。
- ・施設はいつ頃まで使われていたのか。
- ・施設が現在は使われなくなった（または現在も使い続ける）理由は何か。

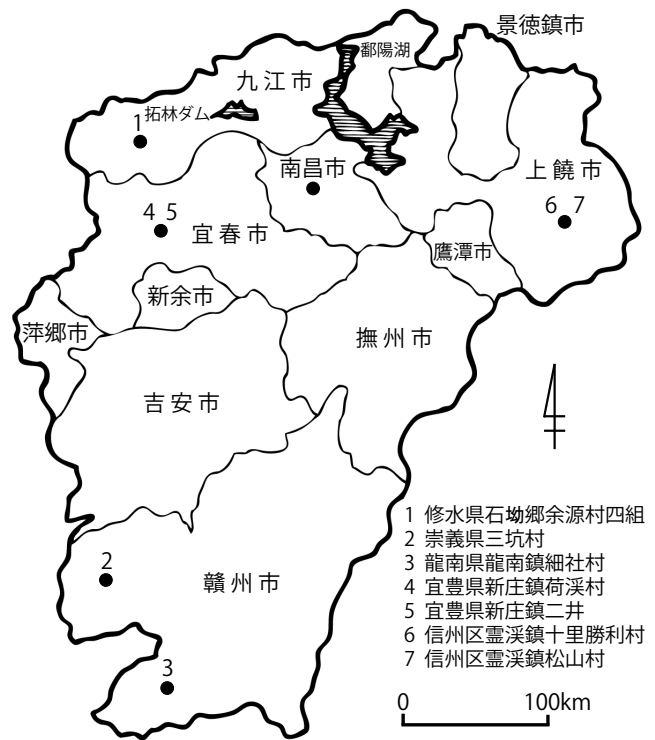


図2 調査対象地域

- ・施設内で豚と一緒に他の動物を飼っている（飼っていた）か。
- ・人間の排泄物は豚の餌として用いる（用いた）か。それとも堆肥の生産に用いるのか、またはその両方なのか。
- ・屋敷と豚便所の位置に関する関係はあるか。
- ・沖縄のフール神のような信仰があるか。



図3 余源村四組
 左上：余源村遠景，右上：猪圈，左下：台所（左）と猪圈（右），右下：猪圈内のトイレ

Ⅲ 江西省内における豚舎の概況

1. 江西省の概要

江西省は別称を贛がんといい、733年に唐の玄宗が江南西道を設置したことになんで“江西”と名づけられた。“贛”という別称は江西省内を流れる最大の河川“贛江”かんこうに由来している（田 2008）。

江西省の総面積は約 16 万 6,900 km² で全中国各省、市、自治区の面積順位は第 18 位である。江西省は中国東南の内陸に位置している。また経済地区区分では湖南省、湖北省、安徽省、河南省、山西省と共に中部地区に属する。江西省は長江中下流域の南岸、東は浙江省、福建省、南は広東省、西は湖南省、北は湖北省、安徽省に囲まれている。古くは“吳頭楚尾、粵戸閩庭”と呼ばれていた¹⁾。

江西省の総人口は 2006 年の統計によると約 4,339.13 万人である。江西省は省都の南昌市の他、九江市、景德鎮市、萍郷市、新余市、鷹潭市、贛州市、宜春市、上饒市、吉安市、撫州市の 11 市が設置されている（王・黄 2008：1）。今回は九江市、贛州市、宜春市、上饒市の 4 市で豚舎を見学した。

2. 九江市

九江市は江西省の北側、長江中下流域の南岸、鄱陽（ポーヤン）湖の浜、廬山の畔に位置してて“江西省の北門”と呼ばれている。この市は贛北部地区の政治、経済、交通、文化、科学教育の中心であり、長江沿岸の開かれた都市でかつては“江西門戸”と言われる兵家必争の地だった（王・黄 2008：15-16）。

九江市の総面積は約 1,823 km²、市区人口約 60 万人、総人口約 466.2 万人である。九江市には 9 県（九江県、武寧県、修水県、永修県、徳安県、星子県、都昌県、湖口県、彭沢県）と瑞昌市、潯陽区、廬山区、九江経済技術開発区、共青開發区、廬山風景名勝区が設置されている。九江市は明、清代には全国の米の 4 大生産地として、また茶の 3 大産地として発展した。現在は江西省北部の重要工業都市そして唯一の港湾都市として発展している（王・黄 2008：16）。

1) 修水県石坳郷余源村四組

余源村は南昌市から直線距離で約 195 km 余り西にあり、南昌市から長距離バスを乗り継いで約 8

時間かかる山間の村である。

余源村では養豚施設を中国語で「猪圈 (zhu juan)」と呼んでいる。猪圈はレンガ、セメントで建てられている。扉は家庭によって木製、鉄製の違いがある。豚の居住空間は各家で多少異なるが概ね縦2 m 余り、横約1.5～3 m、人が餌をやったり通ったりする通路との仕切りの高さは約1 m である。

もともと家計収入の一助として各家庭で豚を飼っていたが、次第に採算が取れなくなり豚を養う家も減ってきて、現在は家庭によっては猪圈を使わなくなったという。今回見ることができたのは3ヶ所の猪圈で、そこでは現在も豚を養っていた。

猪圈はその家の台所の隣に建てられるのが一般的で、建物の台所に向かって右側が猪圈である。これは豚に残飯を与えるのに都合が良いからだそう。しかし猪圈と台所が離れている家もあり、屋敷内での台所と猪圈の位置については特別な決まりはないらしい。ある家では鶏小屋がないので例外として猪圈内で豚と一緒に鶏を飼っていたが、本来猪圈では豚だけを飼い、他の動物を一緒にすることはなかったそう。

この村では豚小屋内にトイレが設置されている。これは人と豚の排泄物を1ヶ所に溜めるのに都合が良いからで、溜まった排泄物は肥料として利用している。試しに人の排泄物を豚に与えることを知っているかどうか尋ねたところ、驚きとともに「そんなことはあり得ない」という答えが返ってきた。

3. 贛州市

贛州は贛南とも呼ばれ、江西省南部に位置している。この地には漢の高祖6年に贛州が設置されて南北宋の時代に繁栄し、現在まで2200余年の歴史を持っている。(王・黄 2008: 66-67) 総面積は39,380 km²、総人口は861.5万人(2006年調べ)である。贛州市は江西省最大の行政市で、1行政区(章貢区)1開発区(贛州経済技術開発区)、2県級市(南康市、瑞金市)、15県(贛県、信豊県、大余県、上猶県、崇義県、安遠県、龍南県、定南県、全南県、興国県、寧都県、于都県、会昌県、尋烏県、石城県)が設置されている。贛州市は江西省内の糖業やタバコの葉、柑橘類などの生産基地として有名である(王・黄 2008: 66-67)。

1) 崇義県三坑村

崇義県は贛州市の西部に位置している。18の郷鎮、154の行政村が設置されている。総人口約19万3,000人、総面積約2,206 km²の農業県である。毛竹(竹の一種)の郷と呼ばれている²⁾。

崇義県三坑村は南昌市から直線距離で約425 km南にあり、南昌市からまず約5時間列車に乗って贛州市へ行き、そこから車を1時間半ほど走らせたところにある山間の村である。

三坑村では養豚施設を中国語で「猪圈 (zhu juan)」または「猪欄 (zhu lan)」と呼んでいる。猪圈はレンガ、セメントで建てられている。この村で見た猪圈は1ヶ所である。豚の居住空間は約5～8 m²と12～15 m²の2つである。この猪圈は山の斜面の果樹園の中に建てられたもので2002年から使われているとのことだった。猪圈は果樹園内にある関係で、山の南側の斜面に建てられていた。

この猪圈では豚だけを飼っていて、他の動物と一緒に飼うことはない。豚小屋のすぐ傍に人のトイレが設置されている。この村では猪圈の中に人のトイレを作ることはなく、トイレと猪圈は必ず分かれているものだそう。人と豚の排泄物はどちらも果樹園の肥料として使っているということである。試しに人の排泄物を豚に食べさせる養豚方法を知っているかどうかを猪圈の所有者に尋ねたところ、「そんなことはしないし、聞いたこともない」ということだった。この質問は彼にとって想像も出来ない内容だったらしく、かなりの驚きと気持ちの悪さを覚えたようだった。

2) 龍南鎮細社村(農科所)敬老院

龍南鎮は龍南県の東北部に位置している。龍南県の政治、経済、文化の中心地である。9つの行政村、285の村小組が設置されている。龍南県はオレンジの産地として有名であり、中国内有数の希土類の産地でもある³⁾。

細社村は南昌市から直線距離で約542 km南にあり、南昌市から約8時間列車に揺られた後、長距離バスに乗って約1時間、更にバスを降りて約20分歩いた盆地にある客家の村である。

細社村では養豚施設を中国語で「猪間 (zhu jian)」または「猪欄 (zhu lan)」と呼んでいる。猪

間はレンガ、セメントで建てられている。この村で見た猪間は1ヶ所である。猪間はトイレに併設された養豚施設で、その中の豚の居住空間は約20m²である。この村の猪間は1980年代まで使われていた。この施設は科学の進歩によって不便が解消された現在は使われなくなったということだ。

猪間では豚だけを飼っていて、他の動物を一緒にすることはなかったそうだ。猪間は家の傍あるいは村の中央に建てられていたという。

以前は人と豚の排泄物はどちらも肥料として使ったり、メタンガスを発生させてそれを使っていたりしていたそうだが、現在は肥料としてのみ利用している。この村の住民(50歳男性)に、人の排泄物を与えて豚を養うことを知っているかどうか尋ねたところ、「1950～60年代頃に聞いたことはあるが見たことはない」という答えが返ってきた。

猪間に関わる信仰は特にないが、トイレや牛圈(牛小屋)の天井裏には棺桶を置くスペースが作られている。これは棺桶は禁忌に関する物で、他に置く場所がないからだそうである。

4. 宜春市

宜春市は江西省西部に位置している。古くは袁州えんしゅうと呼ばれていた。“城側有泉，瑩媚如春，飲之宜人”⁴⁾に因んで宜春と名づけられた。漢の高祖6年(紀元前201年)に堂邑侯の陳嬰が命を受けて秀江の畔に城を築き治めたのが始まりである。現在は1区(袁州区)、3市(樟樹市、豊城市、高安市)、6県(靖安県、奉新県、上高県、宜豊県、銅鼓県、万載県)が設置されている。総面積は約18,700km²、総人口約540万人である(王・黄2008: 60-61)。

1) 宜豊県新庄鎮荷溪村

新庄鎮は南昌市から直線距離で約100km西にあり、南昌市から長距離バスで約2時間半のところにある小さな地方都市である。荷溪村と二井はどちらも新庄鎮の中心から車で約10分の距離にある村である。

荷溪村では養豚施設を中国語で「猪欄(zhu lan)」と呼んでいる。猪欄はレンガ、セメントで建てられている。この村で見た猪欄は1ヶ所であ



図4 豚便所(荷溪村)

手前がトイレで、その後ろが豚の居住スペース(露天)である。排泄物は全て地下に集まるようになっている。

る。豚の居住空間は縦約1m余り、横約2.5m、人が餌をやったり通ったりする通路との仕切りの高さは約1mである。もともと現金収入を得る手段として豚を飼っていたが、規模が小さすぎて採算が取れないため約10年前から使われなくなったそうだ。

猪欄は台所の傍に建てられていたが、これは豚に餌をやり易いことが理由らしい。猪欄では豚だけを飼っていて、他の動物を一緒にすることはなかったそうだ。

豚小屋の隣に人のトイレが設置されていて、人と豚の排泄物はどちらも肥料として使っていたということである。猪欄の所有者(50歳代後半位)に人の排泄物を豚に食べさせる養豚方法を知っているかどうか尋ねた。この質問は彼を少々困惑させたようだったが、「この地域ではそんなことはないし、聞いたこともない」という答えだった。

2) 宜豊県新庄鎮二井

二井では養豚施設を中国語で「猪圈(zhu juan)」と呼んでいるが、規模の大きいものは「家庭小猪廠(jia ting xiao zhu chang)」と呼んでいる。この村で見たのは猪圈1ヶ所と家庭小猪廠1ヶ所である。

猪圈はレンガと材木、家庭小猪廠はレンガで建てられている。猪圈の豚の居住空間は縦約3m、横約3mの正方形で、人が餌をやったり通ったりする通路との仕切りの高さは約1mである。もと



図5 猪間（細社村）

現在は物置きとして使用されている。出入り口の高さより上には棺桶を置くスペースが設けられている。

もと家計収入の一助として豚を飼っていたが、次第に採算が取れなくなり、約6年前から使われなくなった。猪圈では豚だけを飼っていて、他の動物を一緒にすることはなかったそうだ。猪圈は一般的に家の後に建てられている。猪圈には人のトイレは設置されておらず、人の排泄物は肥料として使っているということである。一方家庭小猪廠は敷地面積約800 m²で豚の居住空間は縦約3m、横約3mの正方形である。

この家庭小猪廠は約7～8年前から現在まで使われている。家庭小猪廠では一緒に飼っているわけではないが、鶏も自由に出入りさせているということだ。家庭小猪廠は家屋と同様、主に日当たりを考えて南向きに建てられている。家庭小猪廠内にも人のトイレは設置されていなかった。ここでは豚の糞便からメタンガスを作って家庭用に使っていて、その際に出る水は肥料として使っているということである。

猪圈でも家庭小猪廠でも、人の排泄物を餌として豚に与えることを知っているかどうか尋ねたところ、それぞれ「そんなことはない」との回答だった。猪圈や家庭小猪廠の所有者からすると、この質問はかなり常識から外れたことらしく一笑に付されてしまった。

5. 上饒市

上饒市は江西省東北部に位置している。古くは信州と呼ばれ、“八省通衢”、“豫章第一門戸”として知られている。上饒市は春秋時代に呉越の地として揚州に属していたが、2000年10月国務院の批准を経て、上饒地区から上饒市に改編された。現在上饒市には1区（信州区）、1市（徳興市）、10県（上饒県、広豊県、玉山県、鉛山県、横峰県、弋陽県、婺源県、鄱陽県、余幹県、万年県）が設置されている。総面積は22,791 km²、市区の人口は121.7万人、総人口は676万人（2004年調べ）である（王・黄2008：21）。

1) 信州区霊溪镇十里勝利村

上饒市は南昌市から直線距離で約232 km余り東にあり、南昌市から列車で約4時間の江西省の地方都市である。十里勝利村と松山村は隣り合っていてどちらも上饒駅から車で約10分の距離にある。

十里勝利村では養豚施設を中国語で「猪欄（zhū lan）」と呼んでいる。猪欄はレンガ、セメント、石灰で建てられている。この村で見た猪欄は1ヶ所である。豚の居住空間は縦約3.5 m、横約6～8 m、人が餌をやったり通ったりする通路との仕切りの高さは約1 mである。猪欄は所有者の家の周囲を囲むように3棟建てられている。この猪圈は約7～8年前から現在も使われ続けている。3棟のうちの2棟は約10年前に建てられたもので、残りの1棟は2010年に建てたばかりだということだ。猪欄の所有者はもっと建てたいと考えていたが、この家の後に道路を建設する計画があり、今後猪欄を建ててはいけないと人民政府からの通達があったそうである。猪欄は3棟とも南向きに建てられている。猪欄と自宅との関係は、所有者の家を中心として例えば最初の1棟を家の南側に建てたら、次の1棟は家の西側に建てるという順番がある。これは風水と関係があるが現在は厳格に守られていないようだ。

この猪欄の中には10ヶ所ほどの豚の居住スペースがあり、子豚は1ヶ所にまとめて飼っている。豚が大きくなると1頭ずつ分けて飼う。この猪欄の内外に人のトイレはない。自宅がすぐ傍なのでトイレを作る必要がないからだという。3棟すべて



図6 一般的な養豚施設（松山村）

左：豚の居住スペースから直接外へ繋がっている排水溝，右上：養豚施設内，右下：養豚施設裏
 ※この施設は例外的に通路の奥にトイレがある．人と豚の排泄物をまとめて溜めて，ここから畑に流している．

の猪欄は豚の各居住スペースの外側の壁の下に穴が開けられていて，豚の排泄物はこの穴から猪欄の外に出される．外に出された排泄物は猪欄の壁に沿って掘られた溝を通して1ヶ所に集められ，その後肥料として畑に流されている．猪欄では豚だけを飼っていて，他の動物を一緒にすることはない．

人の排泄物を豚に食べさせる養豚方法を知っているかどうか，猪欄所有者の母親（78歳）に尋ねたところ「そんなことは聞いたことがない」とのことだった．この女性によると猪欄に関する信仰も知らないということだった．

2) 信州区霊溪鎮^{しょうざん}松山村

松山村では猪欄を中国語で「猪欄（zhu lan）」と呼んでいる．猪欄はレンガ，セメント，石灰で建てられている．総面積は約230 m²で1頭あたりの豚の居住空間は縦約5 m，横約3.5 m余り，人が餌をやったり通ったりする通路との仕切りの高さは約1 mである．この猪欄は3～4年程前に建てられたもので，中は中央に人が通る通路が1本あり，

その両側に豚の居住スペースが並んでいる．通路の奥には人のトイレが設置されている．トイレを作ったのは養豚作業のときに便利だからだそうだ．この猪欄の所有者の自宅は猪欄からかなり離れた所にあり，普段は猪欄の傍に建てた小屋に寝泊まりしているらしい．猪欄と小屋はそれぞれ東西の位置にあるが，特に意味はないということだった．

この猪欄では豚だけを飼っていて，他の動物を一緒にすることはしない．人と豚の排泄物はどちらも猪欄の外に巡らされた溝を通して猪欄裏に溜められ，肥料として畑に流されている．猪欄の所有者に豚に人の排泄物を食べさせて養う方法を知っているかどうか尋ねたところ，「そんなことは知らないし聞いたこともない．ただし魚の養殖ではそのようなこともあるらしい」という答えが返ってきた．

昔は各家庭で2～3頭の豚を養っていたが，現代ではそれもなくなったそうだ．屠殺は専門の業者に依頼しているとのことである．

Ⅲ 江西省以外の地域

1. 山東省

山東省は面積約 15 万 6,700 km²、人口約 9,041 万人、省都は済南市である。最大都市はチンタオビールで有名な青島市である。山東省の名称は太行山脈の東側に位置していることに由来する。古代“齊”や“魯”の国があった。現在は 17 市（済南市、青島市、淄博市、棗庄市、東営市、煙台市、濰坊市、済寧市、泰安市、威海市、日照市、萊蕪市、臨沂市、徳州市、聊城市、滨州市、荷沢市）が設置されている⁵⁾。

2. 濰坊市

濰坊市は山東省でも有名な歴史文化都市であり、旧所名跡が多い。現在文化財が 1,800 カ所余りもある。そのうち国家クラスの重要文化財保護指定を受けたものが 3 カ所、省クラスの重要文化財保護指定を受けたものが 27 カ所、県クラスの重要文化財保護指定を受けたものが 400 カ所余りある。4 市区（奎文区、濰城区、坊子区、寒亭区）、6 県級市（寿光市、諸城市、青州市、安丘市、高密市、昌邑市）、2 県（昌樂県、臨朐県）が設置されている⁶⁾。

1) 安丘市臨済鎮周家庄子村

周家庄子村では養豚施設を中国語で「圈 (juan)」と呼んでいる。圈はレンガ、セメント、石で建てられている。この村では 1996 年頃まで各家庭の圈で豚を養っていたらしい。現在では労働に見合う分の収入が得られないこともあり、圈を使った養豚は行われていない。友人が紹介してくれたこの村の圈は 1ヶ所だが、村内のどの家庭でも概ね同じものだそうだ。

圈では豚と他の動物と一緒に飼うことはなかったが、かつては豚と鶏を分けて飼っていたこともあったらしい。この村では人糞を肥料としても利用していたが、豚の餌としても与えていたそうだ。

屋敷の敷地の出入り口は南東にあり、屋敷内における圈の位置は南西の角で、これも村内各家庭で共通しているという。圈に対する信仰はないそうだが、現在でも圈の入口のドアに「六畜興旺 (liu chu xing wang)」⁷⁾と書いた紙を貼る習慣があるらしい。

Ⅳ おわりに

今回の調査成果としては以下のことが明らかになった。

- ・九江市修水県石坳郷余源村四組の豚便所は沖縄のものと異なるが、同一施設内に人のトイレを併設している、豚便所の一形式として捉えることができる。但し養豚方法はかつての沖縄の養豚方法と異なり、人および豚の排泄物は一緒に地下に溜められていて肥料としてのみ利用している。
- ・贛州市崇義県三坑村では養豚施設とトイレは必ず分かれているもので、豚便所は存在しない。
- ・贛州市龍南鎮細社村（農科所）敬老院の猪間は、養豚施設にトイレが設置されている、豚便所の一形式と捉えられる。現在の養豚方法はかつての沖縄の養豚方法と異なり、人および豚の排泄物は肥料としてのみ利用している。しかし 1950～60 年代頃まで昔の沖縄のような養豚方法があった可能性がある。
- ・宜春市宜豊県新庄鎮荷溪村荷溪村では猪圈の側にトイレが設置されていた。緒圈が現在使われていない理由は、豚と人の排泄物を一緒に溜めて利用するということだった。養豚方法こそ沖縄と異なるものの、この施設は豚便所の一形式として捉えても構わないと考える。同鎮二井の猪圈および家庭小猪廠は、豚便所と関係ない現代式の養豚施設と見られる。
- ・上饒市信州区靈溪鎮十里勝利村では猪欄は豚便所と関係ない現代式の養豚施設だった。同村の猪欄は所有者の家を中心として建てる位置が順願で決められている。これは風水と関係があるが、現在は厳格に守られていない。
- ・上饒市信州区靈溪鎮松山村の猪欄は施設内に便所があったが、この養豚施設内のトイレは、単に近くに自宅が無くて不便だからという理由で設置されたもので、この施設は豚便所と呼べない現代式の養豚施設である。

以上のことから江西省内の農村では、地方によって台所と豚小屋が同一建物の隣同士の部屋だったり、養豚施設建設に風水が関係していたり、トイレの天井裏に棺桶を置いたりしていた。江西省内の豚便所は沖縄の豚便所（フール）と形式が異なっ

ているものの、豚便所に複数の形式があると考えられると、これらも豚便所の一形式として捉えられる。養豚方法は人の排泄物を豚に与えることはなく、溜められた人と豚の排泄物は肥料として利用する。肥料以外には地域によってメタンガスを発生させて、それぞれの家庭で利用するケースもあり、結果として江西省の事例は施設の形式および養豚方法から沖縄の豚便所（フール）のルーツを辿れるものではなかった。しかし豚便所には様々な形式があり、沖縄の豚便所（フール）もその中の一つであるということが分かった。

一方で北方出身の学生らとの交流から、河北省せつかさう石家荘市と山東省に現在もかつての沖縄と同様の養豚方法を目的とした豚便所があることが分かった。これらの省では沖縄の豚便所（フール）と同様の養豚方法で豚を養っている（養っていた）村があると聞いている。そこでも聞き取り調査をするなどして、今後も沖縄の豚便所（フール）のルーツや沖縄への伝来ルートなどを探っていきたい。

山東省出身の友人の話によると彼の村である山東省濰坊市安丘市臨渚鎮周家庄子村では、形式こそ沖縄の豚便所（フール）とは異なるものの、その建設目的および養豚方法は沖縄と同じだそうだ。

豚舎に関する信仰について今回の調査結果では、江西省には豚舎に関する信仰はない（残っていない）ことが分かった。但し上饒市の十里勝利村で聞いた78歳の老人（女性）の話では、豚舎を建てるときに風水が関係するそうである。かつての沖縄の豚便所（フール）の風習については、琉球方言学者の金城朝永著『異態習俗考』の中の「屎尿雑記」（1933a）に次のように記されている。

厠の屋根の上に一個または数個の石が据えられていて、「屋敷の御願」の時にこれを「トウシヌミー」（糞を垂れる穴）と共に拝することはある。これを「フールヌウグァン」（厠の御願）と称して、決して忘れずにやっている。口碑によると、この風は二百余年前、時の宰相具志頭親方（蔡温）が、島民の敬神深い心理を利用して厠、井戸、屋敷の四隅などには各々神がおおわしますから常にこれを清めねばならぬと教え自ら礼服を着して拝したに始まると伝えているに過ぎない。

さらに同論文では中国の豚便所に関する風習について「支那には琉球朝鮮と同様厠に豚を飼って人糞を食わず風があったので、『厠神状如大猪』（淵鑑類函）という俗信がある」（金城 1933a : 161）と述べられている。

江西省内の各地域に現在も見られる、堆肥生産のための豚舎とトイレを併設するスタイルは、西谷大（2000）による明器の研究が示すように、いくつかある豚便所の一形式として捉えられることが分かった。西谷（2000）によると中国では漢の時代に墓に明器と呼ばれる物を副葬する習慣が流行して、その中には豚便所の模型も見られるという。西谷（2000 : 26-28）は豚便所明器をその構造から以下のようにⅠからⅣに分類している。

- Ⅰ 便所と豚舎が同一施設内にあるか、もしくは豚舎と便所が同じ床面で隣接するタイプである。豚舎と便所の位置関係によって便所豚舎同居型・便所豚舎内包型・便所豚舎隣接型に分類できる。人糞をブタが直接食べる構造であり、これを「人糞直床式」と呼ぶことにする。
- Ⅱ 便所の下に豚舎が作られる構造である。豚舎の形態から便所下豚舎円形型・便所下豚舎方形型の二種に分類できる。人糞が豚舎より上の位置から降ってきて、豚舎内のブタに与えるため、この方式を「人糞落下式」と呼ぶことにする。
- Ⅲ 人糞落下式のブタ便所を、豚舎内か、または豚舎に隣接して二カ所に作る。ブタ便所男女別型・屋内豚便所同居型がこのタイプに属する。
- Ⅳ 高床式住居の下が豚舎になり、上部の家屋部分の一部屋が便所になる構造である。人糞は、床に穿たれた穴から自動的に豚舎に落ちてゆく人糞落下式豚便所型と呼ぶことにする。

本稿で紹介した江西省の猪圏は西谷の分類したⅠ、山東省の例はⅡにそれぞれ該当すると考えられる。江西省で私が見た豚便所には、深さは分からないが縦横2 m程掘られた地面の上に、床のように程良く隙間を開けた板が敷かれている。そこから大なり小なりを下に落とす形態も見られた。余源村では一例のみだが、金城（1933a）のいう便

を通す穴「トウシヌミー」が掘られていたケースがあった。ただしこの施設も豚の居住スペースから人のトイレの下まで溝が掘られていて、人と豚の排泄物を同じ場所に溜めるという点は同じである。つまり養豚施設内にトイレが設置されている場合でも、人の排泄物をブタが直接食べる構造ではなく、人と豚の排泄物を同じスペースに溜める構造である。

一方、山東省の例は半地下になった豚舎の壁の上（トイレの床面）に屈んで排便し、それが豚の居住空間に落ちてそのまま豚に与える構造らしく、金城（1933a）のいう「トウシヌミー」はない。したがって沖縄の豚便所と形式が異なる。しかし養豚方法は同一と見て差し支えないと思われる。

江西省内では豚に人の排泄物を与える飼育方法を誰も知らなかった。江西省内の上述した地域以外に、省都南昌市内から車で約1時間半程離れた近郊の新建県湾里区太平郷南源劉家村や同県鉄河郷東陽村熊家自然村で見た養豚施設も、江西省内の他の地方のものとほとんど同じものだった。上饒市の十里勝利村で風水の話聞かせてくれた方も「これまでそのような話は聞いたことがない」と話していた。

江西省各地域で共通していたのは人と豚の排泄物を一緒に溜めて肥料として使っているということだった。豚便所成立の二大要因として「ブタにかかわる飼料のコストを引き下げするため、飼料の一部を人糞などに置き換えること」（西谷 2000）と肥料作りが挙げられている。おそらく江西省では肥料作りに重点が置かれていたものと思われる。そのためには人と豚の排泄物は1ヶ所に集められればよく、豚の居住スペースに人の排泄物を落とす必要はなかったと考えられる。

中国の古代養豚研究では「堆肥生産は我が国の農民の養豚の主要な目的の1つであり、漢代の墓から出土する猪圈にはトイレや住居、作業場との関係を示すようなものもみられ、バラエティーに富んでいる」（周 1998 : 68）ことが知られている。周（1998）によれば中国では宋、元代以降養豚業は家庭の副業として一定の発展を遂げていて、『興国県志』には米や豆類、草などを豚に与えることが記されているが、人の排泄物を餌として豚に与えることには触れられていない。また郭（2007 :

44）によると、漢代に山東省曹県出身の汜勝之が書いた『汜勝之書』は、中国古代における早期の養豚と堆肥生産に関する記述があるらしい。さらに郭（2007 : 44）はこの本に“溷”は堆肥生産の場所であり、近年の考古学的調査で「上がトイレで下が圈」という猪圈模型が多く出土していることから、書中の語と訳文の“溷”と“厠”は完全に一致していて、この種の猪圈は堆肥生産のための施設であるといえると述べている。

人糞利用について上饒市松山村で聞いた話は「魚の養殖で餌として人の排泄物を与えるのは聞いたことがある」ということだった。平川（2000 : 88-89）によればベトナムのメコン・デルタの農村でもトイレは池の上に設けられていて、農村の人たちはこれらを排泄物で養殖しているという。

屋敷内の養豚施設の位置について今回の調査では、上饒市の十里勝利村での風水の話以外に特筆すべきことはなかった。沖縄の屋敷内における豚便所（フール）の位置について、平川（2000 : 68）は、次のように述べている。

豚小屋のことを沖縄の方言で、フールまたはフルということは先述したとおりである。それ以外にも「ニシ」という言い方がある。これは北のことである。民家は一般に南向きに造られており、便所は裏の方、すなわち北側に在るための呼び方である。その他にも「ヤーヌクシー」という言い方もあるようだが、これは家の後方という意味である。

一方、山東省濰坊市周家庄子村では豚便所のことを「圈」と言い、どの家庭でも屋敷内での位置は西南角に決まっているという。

猪圈が現在使われなくなった主な理由は、江西省であれ山東省であれ「養豚は採算が取れない」ということであり、沖縄の「公衆衛生上、好ましくないという理由から豚便所が衰退、消滅した」（平川 2000）ことと異なっている。

今回の調査では沖縄にあったような豚便所（フール）は、とうとう見られなかった。しかし中国北方の山東省濰坊市、河北省石家荘市にも豚便所があると聞いている。山東省濰坊市については地元出身の友人が帰省した際に調査票への記入と写真撮影に協力してくれた。

今回は諸事情によりこの両地域へ行けなかったが、機会を改めて訪れるつもりである。

豚をトイレで飼うことは中国から伝わったもので、豚は中国山東省から伝来したものだろとうい説（金城 1933b；平川 2000）や韓国の済州島にも沖縄の豚便所（フール）と同様のものがある（津波 1999）ことなども含めて、今後さらに考察を続けていきたいと考えている。

今回の調査にあたり、周彬さん、章婷さん、華韻藻さん、劉瑞芳さんには案内、通訳をはじめ移動や宿泊の手配等で非常に御世話になり、大変感謝しています。また張偉さんには山東省濰坊市の豚便所について貴重な情報をいただきました。その他ご協力いただいた方々に、末尾になりましたが感謝申し上げます。

注

1) 百度「吳頭楚尾，粵戸閩庭」

<http://zhidao.baidu.com/question/16892291.html>

(2010年12月27日取得)

「周王朝のとき、現在の江蘇省と浙江省北部地区に吳の国があり、楚の国は現在の湖南省湖北省一帯にあった。そこから“吳頭楚尾”は両者に挟まれた江西省を指すようになった。また“粵戸閩庭”の粵は現在の広東省、閩は福建省を指し、江西省は両省の門であり庭である」（翻訳筆者）

2) 百度「毛竹」

<http://baike.baidu.com/view/56674.htm>

(2011年1月17日取得)

3) 百度「龍南鎮」，「龍南県」

<http://baike.baidu.com/view/819131.htm>

(2011年1月17日取得)

<http://baike.baidu.com/view/173630.htm>

(2011年1月17日取得)

4) 「城の側にある泉は透明で春のように美しい。その水は人が飲むのに最適である」（翻訳筆者）

5) ウィキペディア「山東省」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%B1%E6%9D%B1%E7%9C%81> (2011年1月11日取得)

6) ウィキペディア「濰坊市」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E5%9D%8A%E5%B8%82> (2011年1月11日取得)

7) 百度「六畜興旺」

<http://baike.baidu.com/view/370930.htm>

(2011年3月31日取得)

「六畜」は牛，馬，羊，豚，鶏，犬のことで各種の家畜を指す。「六畜興旺」は家禽の繁栄を願う成語である。類義語に「五谷豊登」がある（翻訳筆者）。

文献

金城朝永 (1933a): 屎尿雑記. 『金城朝永全集 (下巻 民族・歴史篇)』 (1974), 沖縄タイムス社, 151-164.

金城朝永 (1933b): 廁に関する習俗. 『金城朝永全集 (下巻 民族・歴史篇)』 (1974), 沖縄タイムス社, 137-150.

津波高志 (1999): 『ハングルと唐辛子』 沖縄発・東アジア行ったり来たりの文化論, ボーダーインク.

西谷 大 (2000): 第一章古代中国におけるブタ飼育の農耕内部化 — 江南と珠江デルタのブタ便所をてがかりに —. 松井健編: 『自然観の人類学』 浴樹書林, 23-39.

平川宗隆 (2000): 『沖縄トイレ世替わり』 フール (豚便所) から水洗まで, ボーダーインク.

郭 錦鐸 (2007): 我国古代養猪文献与出土文物.

王 琨編 『肉類工業』 全国肉類工業科技情報センター, 武漢肉類連合企業集团公司, 44-48.

田 勇 (2008): 第一章江西自然地理. 王忠武編: 『江西導遊新編』 江西科学技術出版社, 1-15.

王 忠武・黄 明亮 (2008): 『導遊実務新編』 江西科学技術出版社.

吳 文峰・鄧 波・李 瑞峰編著 (2005): 『江西旅遊 500 景』 江西人民出版社.

西安地図出版社編 (2010): 『中国公路網及行車里程図冊』 西安地図出版社.

周 広明 (1998): 江西古代養猪史概説. 『南方文物』 江西省文物考古研究所, 江西省博物館, 67-71.

百度「吳頭楚尾，粵戸閩庭」

<http://zhidao.baidu.com/question/16892291.html>

(2010年12月27日取得)

百度「堂邑候」

<http://baike.baidu.com/view/3131562.htm>

(2010年12月29日取得)

ウィキペディア「山東省」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%B1%E6%9D%B1%E7%9C%81> (2011年1月11日取得)

ウィキペディア「濰坊市」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E5%9D%8A%E5%B8%82> (2011年1月11日取得)

百度「毛竹」

<http://baike.baidu.com/view/56674.htm>

(2011年1月17日取得)

百度「六畜興旺」

<http://baike.baidu.com/view/370930.htm>

(2011年3月31日取得)

百度「龍南鎮」,「龍南県」

<http://baike.baidu.com/view/819131.htm>

(2011年1月17日取得)

<http://baike.baidu.com/view/173630.htm>

(2011年1月17日取得)